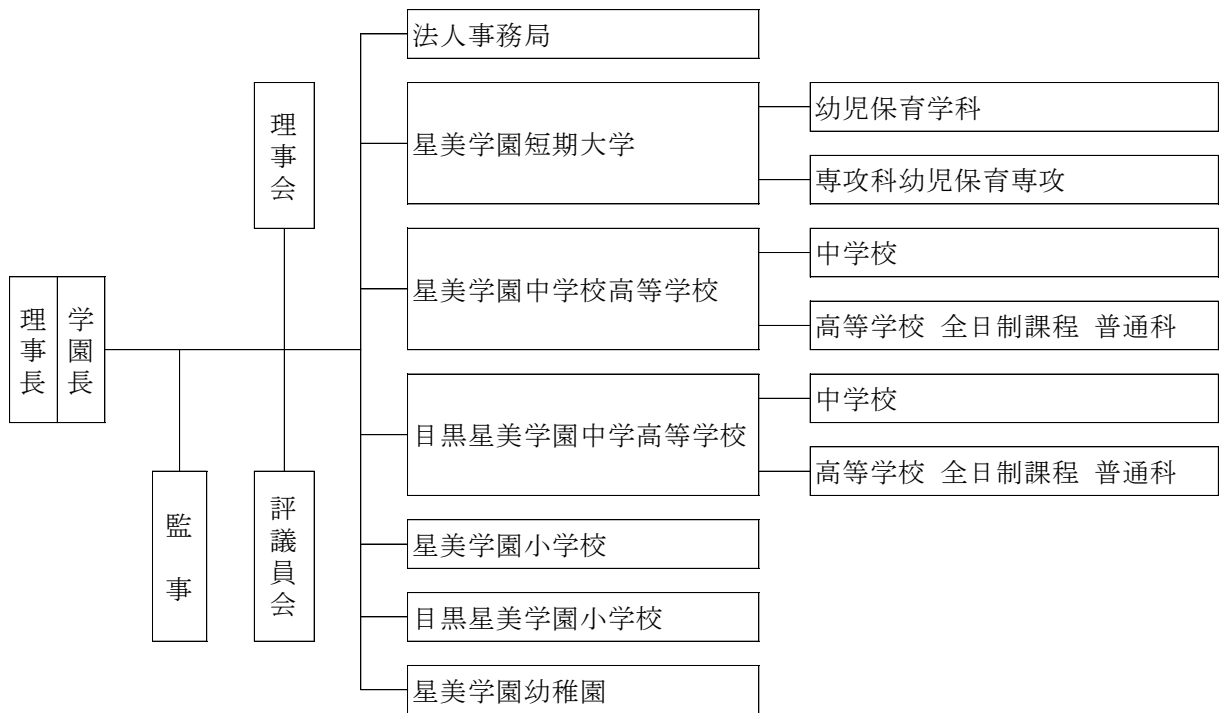


# 令和元年度事業報告

## I 法人の概要

学校法人星美学園は、我が国の教育基本法及び学校教育法に従って、扶助者聖母会の創立者聖ヨハネ・ボスコの教育理念である「予防教育法による全人間教育」、すなわち、理性・宗教・慈愛に基づき、家族的教育環境の中で、「誠実な人間、良い社会人を育てる」ことを目的にカトリック・ミッション・スクールとして教育事業に取り組んでおります。

### 1 組織



## 2 所在地

校名	所在地
法人本部	〒115-8524 東京都北区赤羽台四丁目2-14
星美学園短期大学	
星美学園中学校高等学校	
星美学園小学校	
星美学園幼稚園	
目黒星美学園中学高等学校	〒157-0074 東京都世田谷区大蔵二丁目8-1
目黒星美学園小学校	〒152-0003 東京都目黒区碑文谷二丁目17-6

## 3 沿革

1929年12月	イタリアからシスター・レティツィア・ベリアッティ他5名の宣教女来日
1940年12月	東京三河島「星美学園」創設
1947年01月	星美学園小学校設置認可
1947年04月	星美学園中学校設置認可
1948年03月	星美学園高等学校設置認可
1951年03月	学校法人星美学園設立
1953年01月	星美学園幼稚園設置認可
1954年03月	学校法人星美学園，星美学園第二小学校設置認可
1955年03月	星美学園第二小学校校舎落成（西側半分落成）
1956年10月	「学校法人目黒星美学園」として寄付行為認可 「星美学園第二小学校」を「目黒星美学園小学校」に改称
1959年11月	目黒星美学園中学校設置認可
1960年01月	星美学園短期大学家政科設置認可
1962年09月	目黒星美学園高等学校設置認可
1963年04月	短期大学保育科新設
1967年04月	短期大学国文科新設
1969年05月	短期大学各科の名称を改称（家政学科，幼児教育学科，国文学科）
1971年07月	目黒星美学園中学高等学校体育館完成
1972年02月	目黒星美学園小学校体育館完成

1980年05月	星美学園中学・高校特別教室棟・体育館落成
1985年07月	星美学園プール・南グラウンド竣工
1991年05月	目黒星美学園中高講堂落成
1993年04月	短期大学家政科を生活文化学科と改称
1999年12月	短期大学国文学科・生活文化学科を改組し，人間文化学科とする設置認可
2000年06月	目黒星美学園小学校新校舎落成
2003年04月	短期大学専攻科幼児教育専攻設置
2004年05月	短期大学日伊総合研究所設立
2005年04月	短期大学幼児教育学科を幼児保育学科に改称 専攻科を専攻科幼児保育専攻に改称
2007年04月	目黒星美学園中高6年一貫教育体制導入
2009年04月	短期大学人間文化学科専攻科イタリア語イタリア文化専攻設置
2011年03月	目黒星美学園中高校舎建替工事完成
2012年08月	星美学園防災非常用倉庫設置
2015年04月	短期大学人間文化学科・専攻科イタリア語イタリア文化専攻 廃止
2016年04月	学校法人星美学園と学校法人目黒星美学園合併
2018年04月	短期大学男女共学開始

#### 4 校種別入学者数，在籍者数の状況

令和元年5月1日現在

校 種	学部等	入学者数	収容定員	在籍者数
星美学園短期大学	幼児保育学科	67	200	145
	専攻科幼児保育専攻	58	100	58
	小 計	125	300	203
星美学園高等学校	全日制 普通科	71	450	215
星美学園中学校		56	450	158
目黒星美学園高等学校	全日制 普通科	注 ー	270	249
目黒星美学園中学校		73	270	216
星美学園小学校		98	720	597
目黒星美学園小学校		109	720	656
星美学園幼稚園		74	240	229
学園合計		606	3,420	2,523

注：目黒星美学園高等学校は，高校からの入学募集をしていない。

#### 5 教職員の状況

令和元年5月1日現在

区 分	学園長	学長・ 校長等	教頭・ 副学長	教諭	非常勤 講師	嘱託	小計	事務局 長	事務部 長等	事務員 等	嘱託	小計	合計
法人本部	1						1	1				1	2
短期大学		1	1	9	40		51		1	5	2	8	59
星美学園 高等学校		1	1	22	3		27		1	9	1	11	38
目黒星美 学園高等 高校		1	1	18	2		22		1	5	1	7	29
星美学園 中学校		(1)	(1)	16	5		21		(1)	4	1	7	28
目黒星美 学園中学 校		(1)	(1)	21	10		31		(1)	6	3	9	40
星美学園 小学校		1	1	38	5	1	46		1	10		11	57
目黒星美 学園小学 校		1	2	41	3		47		1	6		7	54
星美学園 幼稚園		1	1	14		3	19			2	1	3	22
合計	1	6	7	179	68	4	265	1	5	47	9	62	327

6 役員・評議員の状況（令和元年5月1日現在）

(1) 役員

区分	定数	実数
理事	8名以上11名以内	11名
監事	2名又は3名	2名

役職	氏名	勤務形態	選任条項	摘要
理事長	鈴木 裕子	常勤	学園長	本学園学園長
理事	阿部 健一	職員兼務理事	学長	星美学園短期大学学長
理事	若松悠紀子	職員兼務理事	校長	目黒星美学園中学高等学校校長
理事	森下 愛弓	職員兼務理事	校長	星美学園中学校高等学校校長
理事	見城 澄枝	職員兼務理事	評議員	星美学園幼稚園園長
理事	小島 理恵	職員兼務理事	評議員	目黒星美学園小学校校長
理事	吉田登代子	職員兼務理事	評議員	星美学園小学校校長
理事	森下ワカヨ	非常勤	学識経験者	外部理事（扶助者聖母会代表役員）
理事	青木 二郎	非常勤	学識経験者	外部理事（弁護士）
理事	福岡 豊	職員兼務理事	学識経験者	法人事務局長
理事	頭島美恵子	職員兼務理事	学識経験者	目黒星美学園中学高等学校校長 教頭補佐
監事	三田村典昭	非常勤	—	外部監事（公認会計士）
監事	最首二三夫	常勤	—	外部監事（元日立オートモティブシステム(株)）

(2) 評議員

区分	定数	実数
職員評議員	18名以上23名以内	16名
非常勤職員評議員		7名
計		23名
うち外部評議員		6名

## II 事業の概要

### 1 部門別の諸活動報告（教育事業）

#### (1) 法人事務局

##### ア 短期大学における修学支援新制度導入を見据えた準備

大学等における修学の支援に関する法律の施行に伴い、経済的理由により修学に困難があるなどの認定要件を満たす学生が、短期大学に入学できるようにする必要があるため、文部科学省に短期大学の確認要件申請を行い、令和元年9月に大学等の修学支援新制度の支援対象機関として文部科学大臣より認定された。

##### イ 奨学金制度の見直し

短期大学における修学の支援新制度導入に伴い、小山君子奨学金規程を見直し、より多くの学生が奨学金を受けられるよう規程を改正した。

##### ウ インフラ整備の安全、確実な工事の実施

老朽化した学園の電気・水道・ガスのインフラを社会福祉法人及び宗教法人と協力し無事に更新が完了した。

##### エ 学園敷地の有効な活用

別地図に示す部分の土地が使用可能となることから、中期的計画を踏まえて引き続き検討を重ねる。

##### オ 会計・固定資産システムのクラウド化

世田谷キャンパス、目黒キャンパス及び赤羽キャンパスがクラウドシステムで直結されたことからデータ入力が円滑となった。また、学校会計基準に精通した職員の教育が欠かせないため、今後もセミナー等で能力向上を進めていく。

##### カ 安全対策

赤羽キャンパスの万年堀の補修工事を実施し、園児、児童、生徒、学生及び赤羽キャンパス周辺を通行する人の安全を確保した。

#### (2) 星美学園短期大学

##### ア 共学化の実施

昨年度は、共学化初年度であり、男子入学者は、2名であったが、今年度は、3名の男子入学者を得た。さらに広報を進め、共学の周知を図りたい。

##### イ 発達障がい児保育ベーシックプログラム

発達障がい児のインクルーシブ保育に対応できる保育者を養成するための

プログラムである。障がい児関連科目 8 科目を履修し、修了試験をパスした者に修了証を授与する。令和元年度は、30名に修了証が授与された。

ウ テアトロ SEIBI

2年生が上演する、学生の手によるオリジナル子ども劇である（準備は、1年次から始まる。）令和元年度は、「歌とこころのオルゴール」を上演し、好評を得た。（本学 Web の「星美チャンネル」から動画を見ることができる。）

エ 公開講座（地域等貢献）

「イタリア文化」「イタリア語」「教養」「保育・教育」の4分野で開催した。

「イタリア文化」分野については、モンテッソーリ教育をテーマに、初めてセミナー形式で実施した。

オ 子育て支援

ピーノの部屋として、専攻科生が行う、0～2歳未満の乳幼児と保護者を対象とする子育て支援活動である。27回開催し、のべ142組の参加があった。

カ 就職指導

年間計画どおり実施され、就職状況は、以下の通りだった。

本科	人数	%	専攻科	人数	%
幼稚園	3	4	幼稚園	8	14
施設（児童指導員）	1	1	保育所	26	45
児童養護施設	1	1	こども園	4	7
一般企業	4	6	公務員	7	12
専攻科進学	63	84	療育施設	3	5
その他	3	4	児童養護施設	2	4
合計	75	100	特別支援教室	3	5
			一般	2	4
			進学	1	2
			その他	1	2
			合計	57	100

(3) 星美学園中学校高等学校

ア 星美授業メソッド

(ア) iPadを活用した授業の実施・報告

(イ) ルーブリックによる評価の実施

各教科引き続き iPad の利用による授業等の推進をしていった。シラバス等にも反映させ、生徒たちが使えるようにしていった。iPad 利用の満足度は保護者が 83%、生徒が 90.4%。実際に使用している生徒たち自身の満足度が高かった。

## イ 新指導要領に伴う教育内容の研究（新指導要領対策委員会の設置）

### (ア) 新カリキュラムの検討

高校生の5コース制の構想をもとに、5コース制検討委員会が新カリキュラムを作成、最後の確認に入った。

### (イ) 新大学入試制度改革への対応とこれに伴うICT関連教育の推進

新大学テストを受ける最初の学年である高校2年生に対してのアプローチを強化し、教員間でも共有して新テストに備えた。

### (ウ) 国際プログラム及び新企画推進

#### a マルタ島語学研修

6名の中学3年生が参加。上級クラスに入った生徒もあり、大変充実した2週間を過ごすことができた。

#### b 海外研修旅行

今年度は、香港のデモや韓国との関係悪化のために、長崎大分研修旅行に変更し、準備を始めたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、来年度の11月に延期となった。

#### c イングリッシュキャンプ

中学3年生の希望者が参加し、大変効果をあげて喜んで帰ってきた。

### (エ) 職場体験

生徒が各企業に行く前に、保護者（父親）の会が事前教育を実施したことで生徒たちに緊張感が生まれ、教員以外の社会人と面談をすることに対して良い経験となった。職場体験でも大変良い経験ができ、成長の機会となった。

## ウ 新企画の広報

### (ア) 夏の理科実験教室（東京理科大学と連携）

予約満員で、大変盛況であった。初めて星美を訪れる方がほとんどで、星美を知らせる良い機会となった。

### (イ) クリスマスフェスティバル（赤羽×星美のコラボ）

天気が心配されたが、時間までは盛況で、訪れた方々は大変喜んでくれた。

### (ウ) 幼・小・中高・短大教職員間の交流促進

学園の教職員研修会の中で、星美学園のセールスポイントを全教員が各校種混合のグループで考え、表現できた。交流の一つの体験となった。

### (エ) 同窓会サポートチーム設立



同窓会の力を借りて、広報をすることができるようになった。

#### (4) 目黒星美学園中学高等学校

##### ア 高大接続プロジェクトの充実化をはかった

###### \*VCP 推進（ボランティアコミュニケーションプログラム）

- ・自分の行動で社会を変えることができるか？
- ・社会をよりよくするために行動したいと思うか？
- ・自分でアクションを起こしてみる。

ユネスコスクール加盟申請と SDG s 教育の推進のために H/R や授業で取り組みを始めた。

###### ユネスコスクールとは

ユネスコ「U.N.E.S.C.O.」は諸国民の教育、科学、文化の協力と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関。

ユネスコスクールは、1953年、ASPnet として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実践的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体として発足。

ユネスコスクールの目的は、①ユネスコスクール・プロジェクト・ネットワークの活用による世界中の学校との交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと②地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すこと

本校の取り組みとしては、環境、貧困、人権、平和、開発などの様々な現代社会の課題を自らの課題として捉え、身近なところから取り組むことにより、解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動によって「接続可能な社会づくりの担い手を育組んでいこうとしてきた。（教員がファシリテータの役目を果たす）

よって、本校のボランティア教育の段階的プランを確認することになった。

###### \*インターンシップ 高2

企業訪問により、大学入試に向けて、将来の方向付けや人としての学びや生き方、社会人としての生き方の学びに取り組んだ。

株式会社山愛 印刷事業・アスリートのキャリアサポート事業  
特定非営利活動法人 BOND プロジェクト 福祉 [若者（女性）支援]

公益財団法人世界自然保護基金ジャパン 自然保護

SB アットワーク 人事・労務サービス

ソーバル株式会社 ソフトウェア・ハードウェア設計開発, マニュアル・  
動画制作

ちえの木の实 セレクト・ブックショップ

東京都リハビリテーション病院 医療・リハビリテーション

日本自然保護協会 自然保護

#### \* ボランティア教育

下記のように段階的プランを推進した。

I 期 (基礎・基本) II 期 (発展・総合) III 期 (応用・充実)

I 期・・・ボランティアの精神 (基礎)

目的 基礎・基本の徹底 (学習 生活 社会性) — 2 年間で身につけ  
させる。

①知識 ②精神 ③公共性 ④コミュニケーション力 ⑤協働

ボランティアに関する知識を習得し, 各自のボランティアへの取り組み  
を考えさせる。

II 期・・・ボランティアの活動 (発展)

目的 II 期では具体的なボランティア活動から, 外部との関わりを増  
やし社会性を身につけ, 他者を認め合いながら協働する心を育  
てる。

①精神 (社会性) ②コミュニケーション力 ③立案・計画 ④キャ  
リア (進路) ⑤協働

III 期・・・「Faccio io」の実践

目的 目黒星美の最高学年としてリーダーシップをとり, I 期・II 期  
で培った能力を最大限に発揮し, 社会の一員として各自の理想  
の進路希望を実現させるようにした。

①コミュニケーション力 (防災教育) ②リーダーシップ ③大学進  
学

・夏ボラ 高 I は全員, 各自で交渉し, 各自で活動して報告書を作成  
した。

・被災地ボランティア研修 宮城県 福島県は, 3 月よりコロナのため  
に休校せざるを得なくなったため実施できなかった。

・フィリピンボランティア研修は高 1 が多数で参加した。

## イ ICT 推進 情報通信技術

タブレット PC・Classi（プラットフォーム）をさらに充実させる。

### ①Classi の新機能の利用

デバイスフリーで利用できるアクティブ・ラーニングツール。プリセットされている教材や、手持ちの PDF の教材・写真をアップロードするだけで、生徒の学習状況をリアルタイムに把握でき、生徒同士の解答を共有することで「みんなで学び合う」学習環境を構築できる。生徒個々人のアクティブ度や学習記録を可視化することで、学習ログ分析をして生徒の学習理解度の把握も可能。

## ウ 新カリキュラム対策委員会

教務部・指導部のメンバー、時に、教科のメンバーから選出して、方向性や大枠について決めていく。

大学との教育連携や新大学入試改革についての研鑽に努めた。

英語教育の充実をさらに検討する

- ・ターム留学 帰国直前コロナ騒動に巻き込まれたが無事終了。
- ・カナダホームステイは見直す。星美との合同も視野に入れて検討中。
- ・サレジアンカレッジ短期交換留学 概ね良好。

### \*言語力向上プロジェクト＝探求推進

毎月、1週間をあてて全校で努力した。

主体性を育て主体的に物を考え表現出来るよう、下記のプランで実施。

伝え合うトレーニング（最終はディベート） 聴くトレーニング

話すトレーニング

## (5) 星美学園小学校

### ア 教育重点目標の充実（サレジアンカラーに生きる教師として）

#### (ア) 愛されていると感じられる関わりをする。

子どもが問題行動を起こした時に、「どうしてそれが起きたのか」という理由を探り、道理に沿いながら、子どもの立場に立った指導を心がけた。

子どもの声に耳を傾け、休み時間も子どもと共に過ごす中で信頼関係を築くようにした。

#### (イ) 強い意志を持って善を選び行動できる児童を育成するために

当たり前のことをしっかり行えること、また、人に流されずに善を実践することを全教員で一致して指導するように心がけた。自己中心や友だちに流される子どもまだいる。充分ではない。

## イ 新学習指導要領実施に向けてのカリキュラムの作成

カリキュラムは令和元年度1月に作成が終了した。令和2年度に、実施する中で、修正を加えていき、新学習指導要領に基づくより良い学習が行えるようにしていく。

### (ア) ICTを活用した学習活動の実施

全教員にiPadが貸与され、また全教室のテレビに「Apple TV」が導入されることにより、意見交流、資料提示や映像視聴などの学習資料などiPadを使用して児童に提示することが容易になった。

1年生からiPadを利用して、写真の撮影や加工を含め、学年に応じて「ロイロノート」などを使用し、効果的な学習を模索しながら行った。

### (イ) プログラミング教育の準備

低学年では、「スクラッチジュニア」高学年では、「スクラッチ」、「ビスケット」などのアプリやインターネット上のhour of code（アワーオブコード）を利用して、プログラミング的な思考が身につくような学習を行った。

## ウ 英語教育の充実

(ア) 1～3年生では、毎週、絵カードとCDを活用し、フレーズや単語を覚えることを家庭学習とし、そのフレーズについてのクイズを英語で出題し、答えさせることを試みた。「英語で考えて、答える」という思考力駆使してコミュニケーションを取る能力を伸ばすことができた。

(イ) 2, 3年生は、アルファベット26文字で始まる26種類の単語を覚えて書けるように指導し、確認テストを行い、全員合格を目指した。

(ウ) 4年生では、英語劇「The Bremen Town Musicians ～ブレーメンの音楽隊～」を行い、全員に一人で言う台詞を与え、発音練習に熱心に取り組み、異文化理解という点でジェスチャー違いなどを知ることができた。

(エ) 2年生～6年生まで希望者は英語検定に挑戦した。高学年では、授業内でも英検のような問題を扱ったり、まとめテストに出題するなど意識を高めることができた。今後、希望者数を増やすように努めたい。

3級5名 4級20名 5級18名 合格

(オ) 5年生は、オーストラリアのセント・リタ小学校とスカイプ交流会を行い、クラス毎に自己紹介や歌の出し物をした。相手校からは、日本語による自己紹介とクイズがあり、リアルタイムの交流を通して、自分たちの英語が通じたことを喜んでいた。

## エ 教員研修

- (ア) 毎週、月曜日の朝会時に前日のミサで読まれた福音箇所を教員全体で共有し、各自黙想を行った。
- (イ) サレジアンカラーに生きる教師を目指して、創立者の精神、教育法を深めるために、夏休みに関谷神父様を講師に迎え、1日研修を行った。また、年間を通して、サレジアンカラーやドン・ボスコの教育法について話し、意識するようになった。
- (ウ) 年間で最低でも一人1回、研究授業を行い、授業研究では、「考えの根拠を明確にする授業」を研修目標に、教科や学年で教材を分析しながら研修した。その際、確かな考えの根拠が持てるような授業を組み立てることを心がけた。また、児童が根拠に基づいた表現力が身につくように「書く」ことにも重点的に指導した。表現力や「書く」については、充分とは言えず根気よく続ける必要がある。

#### オ 幼・小・中高の連携

- (ア) 幼稚園との交流・・・幼稚園年中と1年生、年長と2年生は、一緒に遊んだり、昼食を食べたり、行事に参加したりなど年間5回程度交流を行った。
- (イ) 中学校との連携・・・クラブ体験や学校説明会などの呼びかけを行い、中高のアピールをした。

#### カ 入試広報活動

- (ア) 3月の幼児教室向けの説明会や2月予定の合同説明会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施できずに残念だった。
- (イ) 幼児教室には3月中に本校の説明を含むファイルを送付して活用していただくようにした。
- (ウ) 今年度は、内部幼稚園からの新入生が多かったので、1年生は113名の入学となった。今後も内部幼稚園からの受験希望者が増えるように繋がりを大切にしていきたい。

### (6) 目黒星美学園小学校

#### ア こころの教育

- (ア) 「道徳」の教科化に伴い、本校の「宗教」の内容を見直し、授業をカトリック信者の教員が担っていくことも見据えて、カリキュラムの改訂を進めた。
- (イ) 「チームワークを大事にする教育共同体」を今年度の教職員重点目標として、教職員一人一人が、目黒星美学園小学校を築くメンバーであることを自覚し、積極的に生きることができるよう、教員間のつながりや対話に

努力してきた。

日々起こる問題解決のみならず，児童の様子等についても情報交換し，共通理解のうえ教育活動を展開できるように進めた。

#### イ 新指導要領に沿ったカリキュラムの改訂

令和2年度より実施される新学習指導要領に沿うよう，全教科カリキュラムの改訂を行った。特に，本校の特色である「合宿」に重点を置いていることが明確になるようカリキュラムの様式を工夫しているが，現段階ではまだ完成していない。

#### ウ プログラミング教育の研究

プログラミング教育の必修化に伴い，各教科で，プログラミング的思考力を伸ばすための工夫ができる単元を挙げ，それをカリキュラムに挿入していくよう，教科研究部から提案し実施した。

2月末から休校になったため，教員の研修はできていないが，それに代わるものとして，「ロイロノート」についての研修は進められた。

#### エ 教員研修

(ア) サレジアンカラーを意識できるよう，毎月，サレジアンカラーの重点項目を1つ選び，月末には学年部でそれについて反省し分かち合う時間をとった。また，「サレジアンカラー」を実践できることを願って，毎週月曜日の終礼時は，全員で「サレジアンカラー」の文言で祈った。

#### (イ) 新任教員研修

3年目までの教員は，指導計画を提出し，学期に一回の公開授業を行い，公開日の放課後には協議会を開いて意見交換をして教員の能力向上を図った。

#### (ウ) 全教員研修

「授業力の向上を志す会」(自主的な会)の立ち上げの声が教員の中から上がった。「働き方改革」も念頭におきながら，教員の自主的な活動を学校として応援してきた。教員間での授業についての話し合いは活発になっている。

#### (7) 星美学園幼稚園

##### ア 星美の森の教育環境向上

自然と触れ合い友だちとのかかわりを深める場である森の環境を，子どもの生活にふさわしい場となるように整えていく。自然の環境を大切にしながら伸び伸びと遊び安全で快適に過ごせる場にする。

## イ 預かり保育の充実

年少児の預かり保育を例年5月からとしていたが、保護者の就労に伴うニーズの高まりから4月より実施をした。

保育後の預かり保育においても、幼児の生活にふさわしい遊具・遊びを取り入れるなどの工夫をした。

## ウ 保護者との連携の強化

子どもたちの育ちを面談や送迎時、丁寧に伝えた。また、保育内容をクラス便りなどを通じて保護者に分かりやすく伝え、信頼関係を築くよう努めた。

## エ 広報の充実

星の子会や見学会の回数を増やした。幼稚園の魅力や教育活動を自信をもって伝えるよう、積極的な関わりをしてきた。

ホームページ・パンフレット・チラシのリニューアルをし、教育内容をよりわかりやすく伝えられるようにした。

## オ 幼・小・短大との情報交換及び連携

年中児と小学1年生、年長児と小学2年生でペアを作り、交流会を実施した。幼稚園児が小学生に対し、憧れの気持ちを抱いたり、小学生も園児の面倒を見たりしながら自然な異年齢のかかわりができた。

短期大学の事前実習や、専攻科生の授業などで、連携を深めている。

## カ 教職員の専門性の向上

教職員間で、子どもたちの姿を分かち合い、共通認識をもちチームティーチングを実践した。担任だけではなく、広い視野をもって子どもたちの成長を支えるよう、連携を強化してきた。

園内および園外の研修、ケースカンファレンス等を利用し、専門性を高めるよう努めた。また、研修の分かち合いをしながら、職員間で情報を共有してきた。

## 2 施設及び設備の主要事業

星美学園は、老朽化したインフラ整備（電気、ガス）を着実に実施し、寒暑時期の教育に影響が出ないように準備を進めている。また、省エネルギー事業及びICT事業を計画的に実施した。

令和元年度に実施した主要事業は、次のとおりです。

### (1) 法人本部

1	新受電所新設
2	ガスガバナ更新工事
3	西南門新設
4	本館屋上防水工事
5	インフラ等整備監修費
6	土地の購入

(2) 星美学園短期大学

1	GHP更新
2	VIDシステム端末更新
3	事務システム更新・サポート費
4	LL教室マスター卓更新

(3) 星美学園中学高等学校

1	教員用PCリプレイス
2	グラウンド照明のLED化
3	パイプオルガンの修理・移設

(4) 目黒星美学園中学高等学校

1	校内（教室等）LED照明工事
2	非構造物耐震工事（飛散防止フィルム施工）
3	図書室のコピー機の更新

(5) 星美学園小学校

1	校舎のLED化
2	教育用iPad
3	エレベータ制御装置の更新

(6) 目黒星美学園小学校

1	照明のLED化（2階，3階）
2	空調機の増設（地下1階廊下）

(7) 星美学園幼稚園

1	星美の森整備
2	印刷機更新
3	無線LANシステム
4	保育支援システム



### Ⅲ 財務の状況

#### 1 資金収支計算書

(収入の部)

(単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	1,612,276,300	1,577,257,900	35,018,400
手数料収入	22,665,500	23,556,200	△ 890,700
寄付金収入	61,250,000	63,236,097	△ 1,986,097
補助金収入	950,031,000	988,945,948	△ 38,914,948
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	13,300,000	10,186,549	3,113,451
受取利息・配当金収入	4,750,000	9,318,769	△ 4,568,769
雑収入	47,077,000	72,351,749	△ 25,274,749
借入金等収入	200,000	0	200,000
前受金収入	307,020,000	296,758,110	10,261,890
その他の収入	355,030,000	169,194,851	185,835,149
資金収入調整勘定	△ 350,420,000	△ 374,328,339	23,908,339
前年度繰越支払資金	352,854,079	1,392,832,508	△ 1,039,978,429
収入の部合計	3,376,033,879	4,229,310,342	△ 853,276,463

(支出の部)

人件費支出	1,965,650,000	1,882,869,920	82,780,080
教育研究経費支出	455,285,000	418,404,684	36,880,316
管理経費支出	193,700,000	146,484,460	47,215,540
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	200,000	200,000	0
施設関係支出	204,339,000	207,768,769	△ 3,429,769
設備関係支出	84,000,000	75,047,903	8,952,097
資産運用支出	100,000,000	100,000,000	0
その他の支出	33,983,000	42,020,253	△ 8,037,253
〔予備費〕	45,000,000	0	45,000,000
資金支出調整勘定	△ 32,718,000	△ 41,827,271	9,109,271
翌年度繰越支払資金	316,594,879	1,398,341,624	△ 1,081,746,745
支出の部合計	3,376,033,879	4,229,310,342	△ 853,276,463

## 2 事業活動収支計算書

(単位：円)

科 目		予 算	決 算	差 異
教育活動収支	学生生徒等納付金	1,612,276,300	1,577,257,900	35,018,400
	手数料	22,665,500	23,556,200	△ 890,700
	寄付金	40,250,000	34,856,097	5,393,903
	經常費等補助金	933,500,000	949,158,948	△ 15,658,948
	付随事業収入	9,400,000	8,223,758	1,176,242
	雑収入	47,077,000	74,697,452	△ 27,620,452
	教育活動収入計	2,665,168,800	2,667,750,355	△ 2,581,555
	人件費	1,965,650,000	1,883,100,640	82,549,360
	教育研究経費	972,285,000	894,199,135	78,085,865
	管理経費	213,400,000	160,924,909	52,475,091
	徴収不能額等	1,017,000	1,017,000	0
	教育活動支出計	3,152,352,000	2,939,241,684	213,110,316
	教育活動収支差額	△ 487,183,200	△ 271,491,329	△ 215,691,871
教育活動外収支	受取利息・配当金	4,750,000	9,318,769	△ 4,568,769
	その他の教育活動外収入	3,900,000	3,600,000	300,000
	教育活動外収入計	8,650,000	12,918,769	△ 4,268,769
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	8,650,000	12,918,769	△ 4,268,769
經常収支差額	△ 478,533,200	△ 258,572,560	△ 219,960,640	
特別収支	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	37,531,000	68,592,539	△ 31,061,539
	特別収入計	37,531,000	68,592,539	△ 31,061,539
	資産処分差額	0	1,503,457	△ 1,503,457
	その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計	0	1,503,457	△ 1,503,457
	特別収支差額	37,531,000	67,089,082	△ 29,558,082
[予備費]	(1,017,000) 43,983,000		43,983,000	
基本金組入前当年度収支差額	△ 484,985,200	△ 191,483,478	△ 293,501,722	
基本金組入額合計	△ 241,380,000	△ 183,151,218	△ 58,228,782	
当年度収支差額	△ 726,365,200	△ 374,634,696	△ 351,730,504	
前年度繰越収支差額	4,502,065,714	6,319,355,703	△ 1,817,289,989	
基本金取崩額	0	50,054,007	△ 50,054,007	
翌年度繰越収支差額	3,775,700,514	5,994,775,014	△ 2,219,074,500	

(参考)

事業活動収入計	2,711,349,800	2,749,261,663	△ 37,911,863
事業活動支出計	3,196,335,000	2,940,745,141	255,589,859

### 3 貸借対照表

#### 資産の部

(単位：円)

科 目		本年度末	前年度末	増 減
資 産	固定資産	29,064,682,650	29,273,405,596	△ 208,722,946
	有形固定資産	9,936,961,603	10,145,684,549	△ 208,722,946
	特定資産	19,006,916,000	19,006,916,000	0
	その他の固定資産	120,805,047	120,805,047	0
	流動資産	1,483,121,454	1,449,005,437	34,116,017
	合 計	30,547,804,104	30,722,411,033	△ 174,606,929

#### 負債の部，純資産の部

科 目		本年度末	前年度末	増 減
負 債	固定負債	195,954,108	208,342,483	△ 12,388,375
	流動負債	536,151,984	506,887,060	29,264,924
	負債の部合計	732,106,092	715,229,543	16,876,549
純 資 産	基本金	23,820,922,998	23,687,825,787	133,097,211
	繰越収支差額	5,994,775,014	6,319,355,703	△ 324,580,689
	純資産の部合計	29,815,698,012	30,007,181,490	△ 191,483,478
合 計		30,547,804,104	30,722,411,033	△ 174,606,929